日本海新聞　2009年（平成21年）6月17日　水曜日

ITPだより

砂と暮らし 砂に学ぶ ……❸

チュニジアってどんな国？(2)

イスラム教についてどんな印象を持っていますか？　チュニジアの国教はイスラム教です。当初、僕の頭の中のイスラム教は「考えが強固」で「他宗教に対して攻撃的」な宗教でした。ところがチュニジアの人々と接するうちに、これまでの印象が払拭されました。

ここでは、言葉も十分に通じない僕らに「うちに遊びに来い」「一緒にカフェに行こう」と頻繁に声をかけてくれ、イスラム教のお祭り（日本でいえばお正月）には家に招待してくれるなど、人々はとても友好的です。

また、チュニジア人同士も人と人との関係、特に家族や親類との関係をとても大切にしています。ここでは両親と一緒に暮らすのが一般的で、頻繁に親類の家を訪ねます。頬にキスをするのがこちらでの挨拶なのですが、現地の友だちに「そんなこと家族にしたことない」と言ったら驚かれ、「もっと親を大事にしないといかん！」と怒られるほどでした。人々の温かさの中で、大切なことを教えられています。

（鳥取大学大学院農学研究科学生・槙野良介）

（水曜日に掲載）

友人の両親と。壁を越えた言葉や宗教の違いをものともせず、家族のように接してくれるチュニジア人の人柄が著者）

ＩＴＰ（若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム）　国際的に活躍できる若手研究者を育成することを目指し、日本学術振興会が支援する事業。